

2023年度 期末 決算説明資料

2024年5月9日

リンナイ株式会社

Rinnai

免責事項

本資料に含まれる見通し、予想、戦略その他将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまなリスクおよび不確定な要素により当該記述と大きく異なる可能性があります。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としていません。

1. 2023年度 実績

2. 中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し

3. 2024年度 計画

2023年度 連結決算要点

売上高 : **4301.8億円** (前期比: +1.2%)

過去最高

上期は市場環境が低調に推移するも、下期に在庫水準が適正化に向かい、過去最高売上 【計画比*: $\Delta 2.2\%$ 】

営業利益 : **393.6億円** (前期比: $\Delta 5.0\%$ 利益率: 9.2%)

下期に生産体制の正常化・コスト削減により、上期のマイナスを大きく挽回

【計画比*: +0.9%】

経常利益 : **460.7億円** (前期比: +3.4% 利益率: 10.7%)

為替差益が寄与し、増益

過去最高

【計画比*: +4.7%】

親会社株主に帰属する

当期純利益 : **266.6億円** (前期比: +2.2% 利益率: 6.2%)

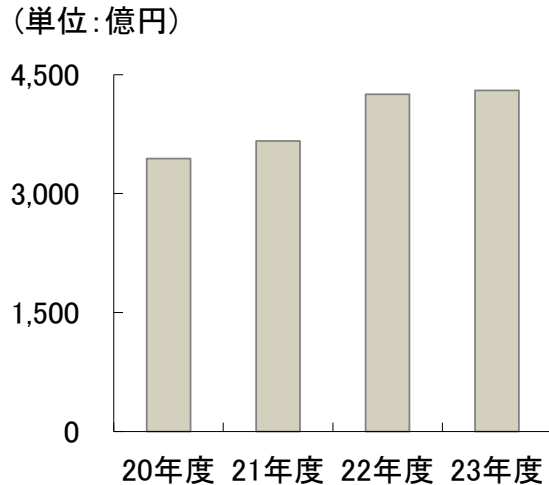
【計画比*: +6.7%】

*「計画比」は2023年8月4日発表の修正後の業績予想値に対する比率

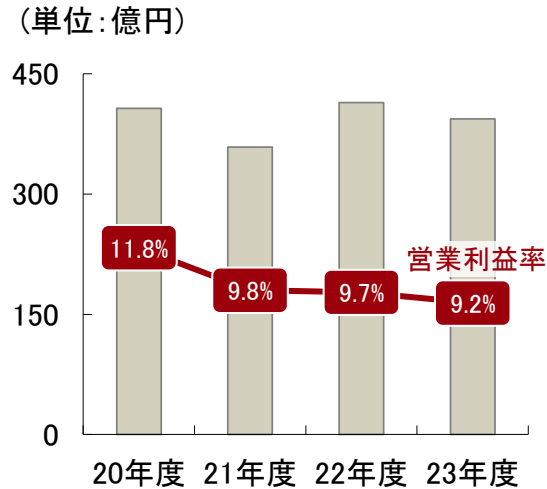
- 上期: 物価上昇・金利の高止まりで消費マインドが冷え込み、低調に推移
- 下期: 在庫水準の適正化で、売上・利益ともに大きく回復 下期利益は過去最高

連結業績推移

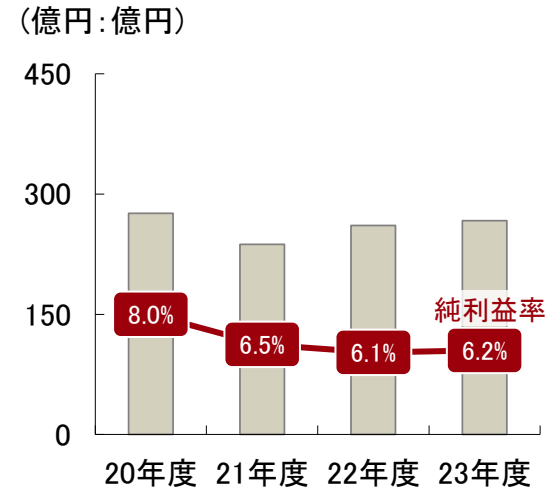
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する 当期純利益



■ 売上は為替換算影響もあり、4期連続増収

■ この4年は需給バランスの崩れやサプライチェーンの混乱により、利益は不安定に推移

2023年度 機器別売上高の内訳

[単位:億円]

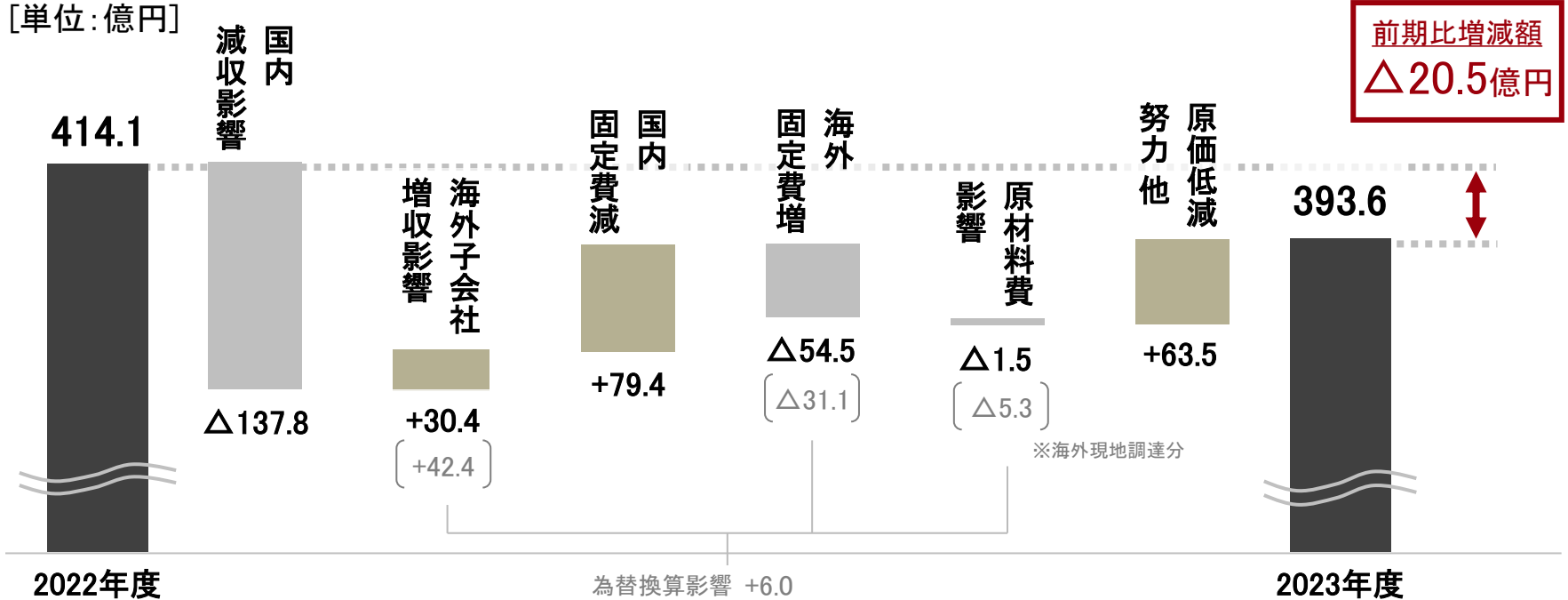
機器別	2022年度		2023年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
給湯	2586.5	60.8%	2638.3	61.3%	+51.8	+2.0%
厨房	917.8	21.6%	904.9	21.0%	△12.8	△1.4%
空調	219.4	5.2%	217.4	5.1%	△1.9	△0.9%
業用	106.6	2.5%	112.1	2.6%	+5.4	+5.1%
その他	421.7	9.9%	428.9	10.0%	+7.1	+1.7%
合計	4252.2	100.0%	4301.8	100.0%	+49.5	+1.2%

2023年度 連結セグメント別 損益実績内訳

[単位:億円]	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
連結	4301.8	+1.2%	393.6	△5.0%	9.2%	△0.6pt
	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
日本	1923.5	△2.3%	179.6	△23.9%	9.3%	△2.6pt
アメリカ	578.7	+3.8%	△11.9	-	△2.1%	△2.6pt
オーストラリア	303.3	+9.7%	12.4	+5.6%	4.1%	△0.2pt
中国	718.8	+8.7%	121.4	+14.9%	16.9%	+0.9pt
韓国	318.7	△0.7%	0.1	△97.7%	0.1%	△2.1pt
インドネシア	149.1	△8.0%	27.4	+14.4%	18.4%	+3.6pt
その他	309.4	+1.3%	43.6	△10.5%	14.1%	△1.9pt
調整額	-	-	20.7	-	-	-

2023年度 連結営業利益分析

[単位:億円]



■ 国内・海外の固定費削減と生産回復に伴う原価低減効果の発現により、上期の減益幅を大きく縮小

日本 セグメント 2023年度 実績

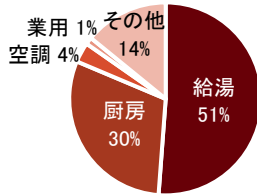
■ 対象会社

リンナイ単体、国内連結子会社（製造・販売）

■ 主要品目



商品別売上構成比
(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)	2022年度	2023年度	増減率
売上高	1968.3	1923.5	△2.3%
営業利益	235.9	179.6	△23.9%
営業利益率	12.0%	9.3%	△2.6pt

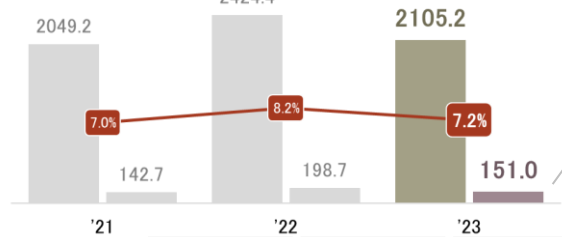
■ 主要会社 個別業績

リンナイ単体

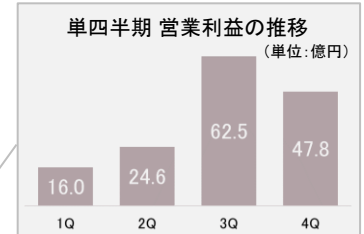
- 下期にかけて流通在庫が適正化したことに加え、価格改定効果の浸透で回復基調
- ハイブリッド給湯器などの重点商品の販売が伸長

リンナイ単体 通期 実績推移

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率
(単位: 億円)



(単位: 億円)	2022年度	2023年度	増減率
売上高	2424.4	2105.2	△13.2%
営業利益	198.7	151.0	△24.0%
営業利益率	8.2%	7.2%	△1.0pt



(販売台数: 国内)	前期比増減率
給湯暖房機	△16.3%
ふろ給湯器	△25.2%
ビルトインコンロ	△3.9%
ガス衣類乾燥機	△2.7%

アメリカ セグメント 2023年度 実績

■ 対象会社

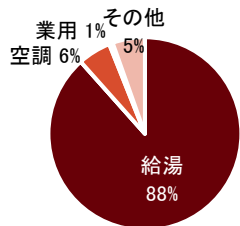
リンナイアメリカ

■ 主要品目



商品別売上構成比

(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	557.5	578.7	+3.8%
営業利益	3.1	△11.9	-
営業利益率	0.6%	△2.1%	-

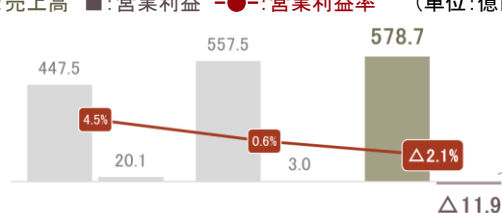
■ 主要会社 個別業績

リンナイアメリカ

- 販促や減産調整により、期初から高水準だった在庫の調整が一巡
- 在庫適正化に伴う倉庫保管料や労務費・販促費の削減で、累計赤字を圧縮

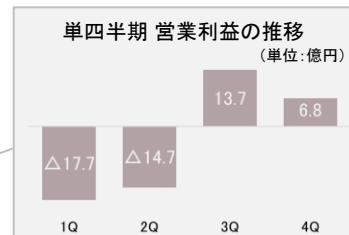
【リンナイアメリカ 通期実績】

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



単四半期 営業利益の推移

(単位: 億円)



(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	557.5	578.7	+3.8%	△3.4%
営業利益	3.0	△11.9	-	-
営業利益率	0.6%	△2.1%	-	-

(販売台数)

前期比増減率

タンクレス 給湯器	△5.8%
内)コンデンシング (高効率タイプ)	△13.6%

中国 セグメント 2023年度 実績

■ 対象会社

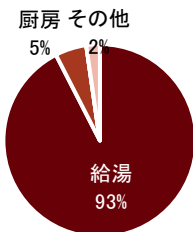
上海林内、広州林内、林内香港

■ 主要品目



商品別売上構成比

(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	661.5	718.8	+8.7%
営業利益	105.6	121.4	+14.9%
営業利益率	16.0%	16.9%	+0.9pt

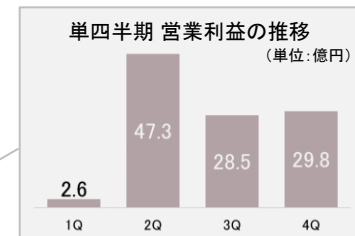
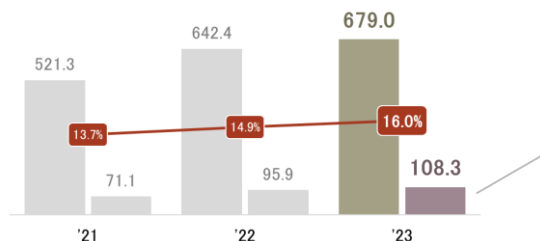
■ 主要会社 個別業績

上海林内

- 不動産市況の悪化が継続する中、ECチャネルが好調
- 販路拡大と高付加価値品への切替えが進み、増収増益を達成

【上海林内 通期 実績】

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	642.4	679.0	+5.7%	+3.5%
営業利益	95.9	108.3	+13.0%	+10.6%
営業利益率	14.9%	16.0%	+1.1pt	

(販売台数)

	前期比増減率
給湯器	+3.3%
ビルトインコンロ	△37.9%
レンジフード	△23.5%
ボイラー	+4.0%

オーストラリア セグメント 2023年度 実績

■ 対象会社

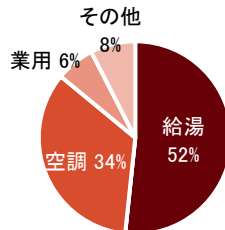
リンナイオーストラリア

■ 主要品目



商品別売上構成比

(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	276.5	303.3	+9.7%
営業利益	11.8	12.4	+5.6%
営業利益率	4.3%	4.1%	△0.2pt

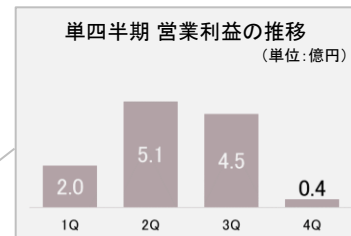
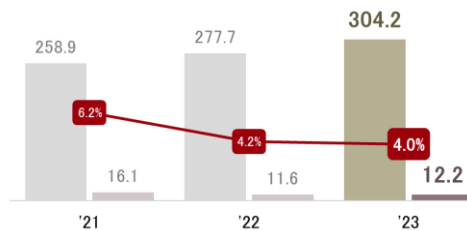
■ 主要会社 個別業績

リンナイオーストラリア

- 住宅市場が低調に推移するも、主力のタンクレス給湯器が回復
- ガスに対する規制強化を受け、電気商材が伸長

【リンナイオーストラリア 通期 実績】

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	277.7	304.2	+9.6%	+6.3%
営業利益	11.6	12.2	+4.8%	+1.8%
営業利益率	4.2%	4.0%	△0.2pt	

(販売台数)

前期比増減率

タンクレス給湯器	+4.8%
電気タンク式給湯器	+11.9%
ダクト式冷暖房システム	△6.2%

韓国 セグメント 2023年度 実績

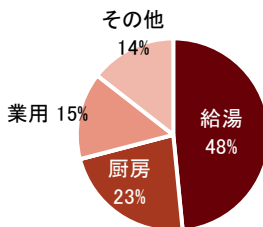
■ 対象会社

リンナイ코리아、アール・ビー・코리아

■ 主要品目



商品別売上構成比
(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	320.9	318.7	△0.7%
営業利益	7.0	0.1	△97.7%
営業利益率	2.2%	0.1%	△2.1pt

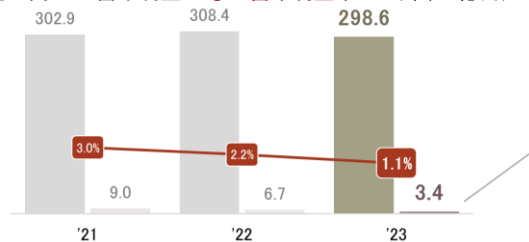
■ 主要会社 個別業績

リンナイ코리아

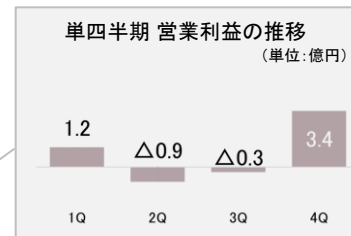
- 住宅着工件数に底打ちの兆しがあるものの価格競争が継続し、市場は低調
- 厳しい状況下で、固定費抑制を継続し、黒字着地

【リンナイ코리아 通期 実績】

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



単四半期 営業利益の推移
(単位: 億円)



(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	308.4	298.6	△3.2%	△8.7%
営業利益	6.7	3.4	△49.2%	△52.1%
営業利益率	2.2%	1.1%	△1.1pt	

(販売台数)

	前期比増減率
ボイラー	△11.0%
ガスコンロ	△13.0%
電気コンロ	+6.2%

インドネシア セグメント 2023年度 実績

■ 対象会社

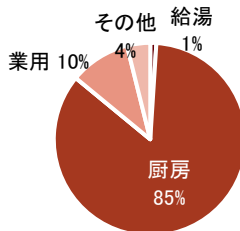
リンナイインドネシア

■ 主要品目



商品別売上構成比

(2023年度 実績)



■ セグメント実績

(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	162.0	149.1	△8.0%
営業利益	24.0	27.4	+14.4%
営業利益率	14.8%	18.4%	+3.6pt

■ 主要会社 個別業績

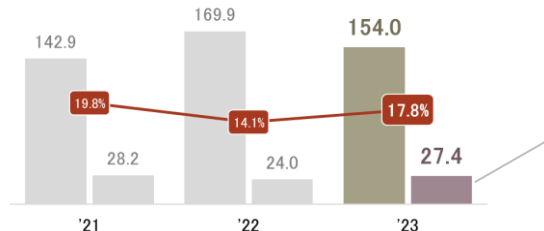
リンナイインドネシア

■ 物価上昇による消費マインドの冷え込みにより、販売が低調に推移

■ 価格改定や原材料価格の低下、原価低減努力により、高利益水準を維持

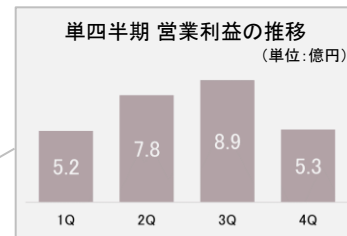
【リンナイインドネシア 通期 実績】

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



単四半期 営業利益の推移

(単位: 億円)



(単位: 億円)

	2022年度	2023年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	169.9	154.0	△9.3%	△13.4%
営業利益	24.0	27.4	+14.4%	+9.4%
営業利益率	14.1%	17.8%	+3.7pt	-

(販売台数)

前期比増減率

テーブルコンロ	△14.0%
ビルトインコンロ	△24.7%
レンジフード	+2.6%

1. 2023年度 実績
2. 中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し
3. 2024年度 計画

目次

～中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し～

1. 数値目標の進捗と今後の見通し

売上，利益，株主還元，ROE，ROIC，「生活の質」「地球環境」貢献商品，CO₂削減貢献量

2. 成長戦略

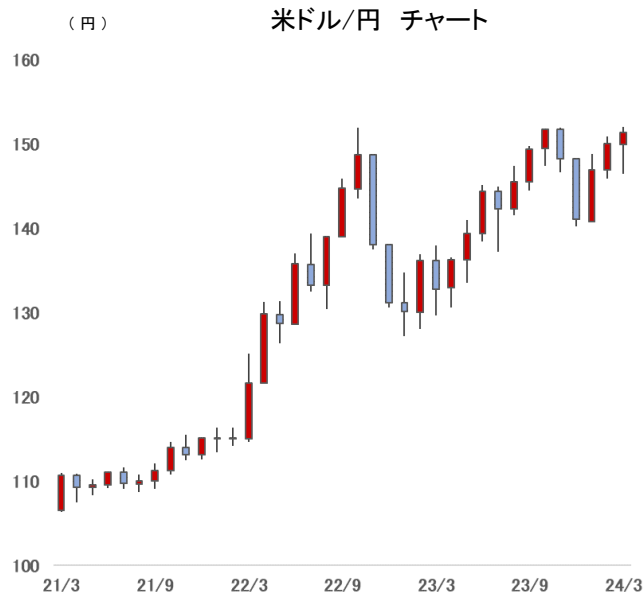
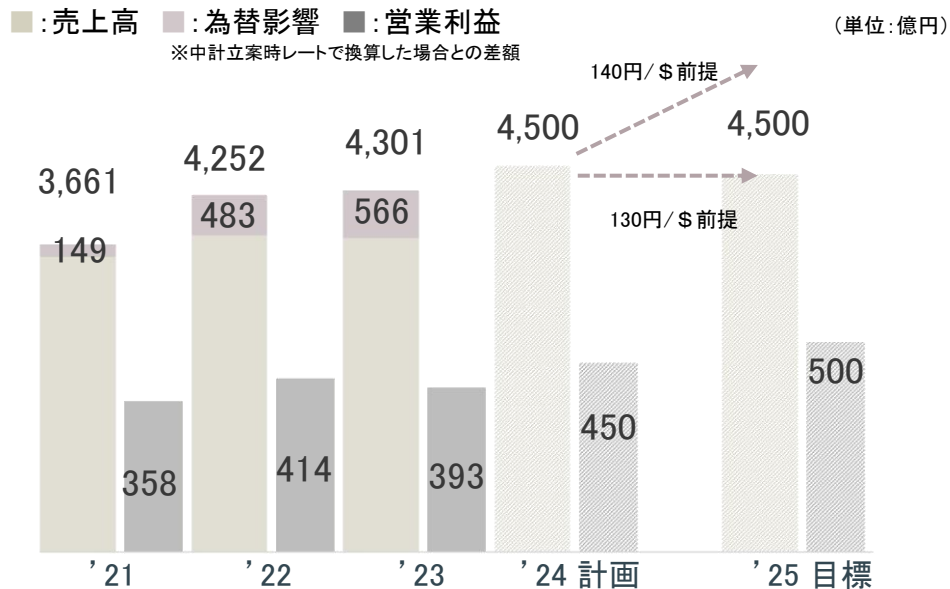
主要3か国の方向性(日本・アメリカ・中国)

3. ESG RIM2050の進捗

役員報酬&株式保有ガイドライン

中期経営計画の進捗(売上・利益)

中計目標 売上高:4,500億円 営業利益:500億円



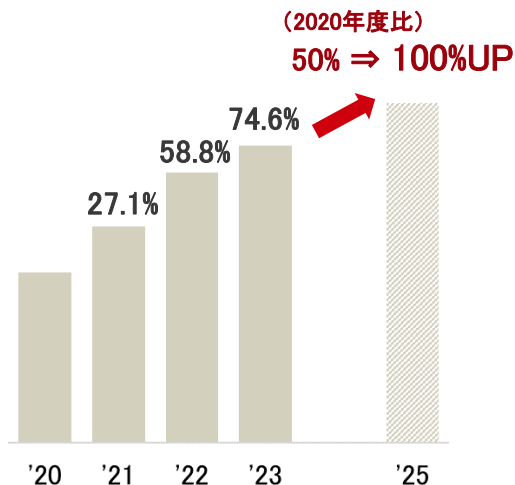
■ 売上は為替影響により、中計ラインを上振れ 25年度目標は据え置き

中期経営計画の進捗(社会課題解決への貢献)

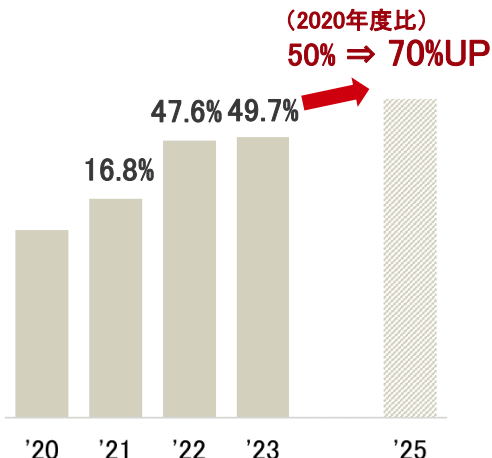
中計目標

「生活の質の向上」「地球環境」貢献商品：売上高(2020年度比) 50%UP
CO₂削減貢献量：700万t

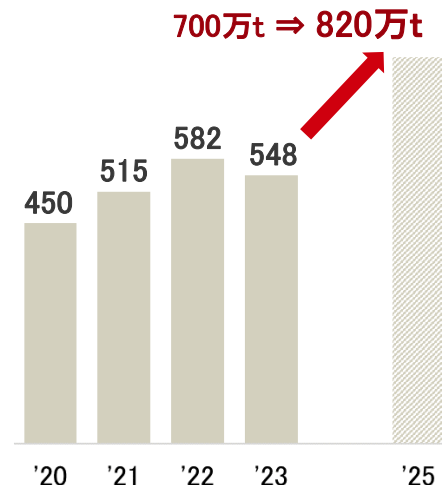
■ 「生活の質の向上」貢献商品 売上高



■ 「地球環境」貢献商品 売上高



■ CO₂削減貢献量

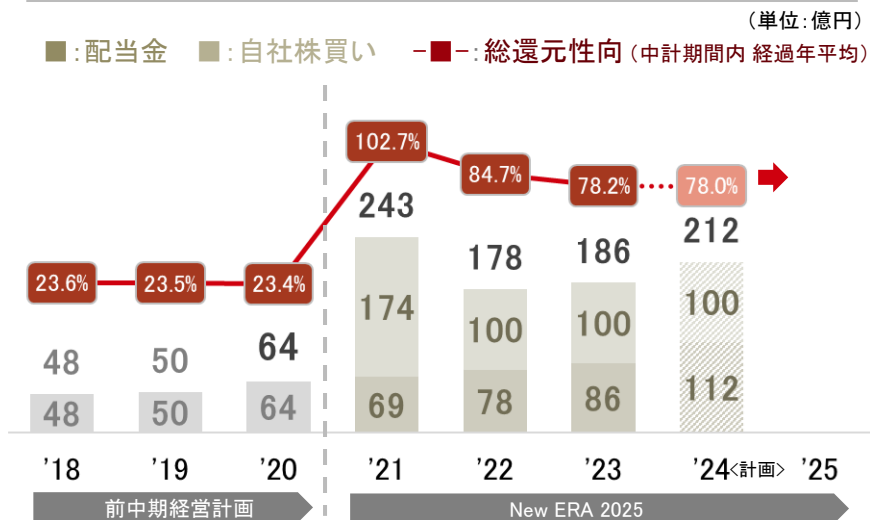


■ 中計目標ラインを大幅に上回る進捗 25年度目標を上方修正

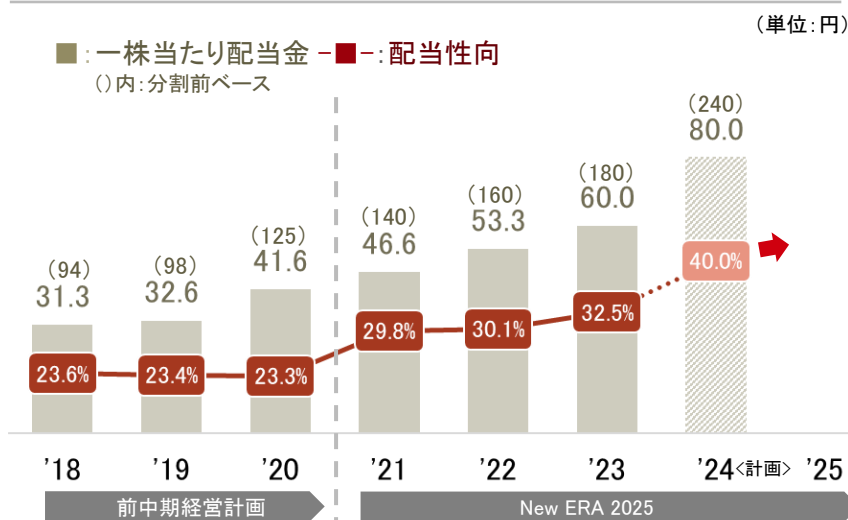
中期経営計画の進捗(総還元性向・配当性向)

中計目標 総還元性向(5年平均):40% 配当性向:40%

■ 総還元性向(平均)の推移



■ 一株当たり配当金・配当性向推移



- 資本コストと株価を意識し、25年度 ROE:8%必達に向け、還元水準を大幅に引き上げ
- 今後は成長投資とのバランスを見据えた還元政策を進める

中期経営計画の進捗 (ROE・ROIC)

中計目標 25年度 ROE:8% ROIC:19%

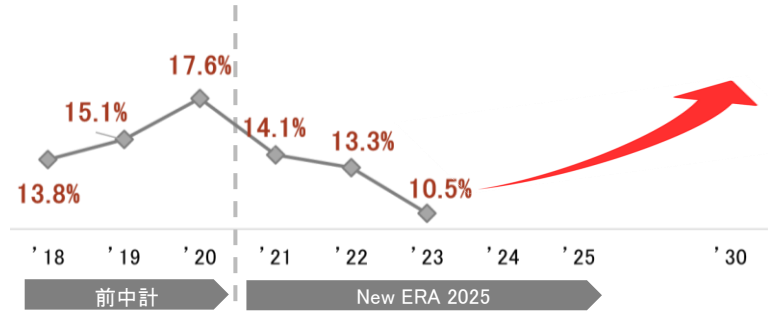
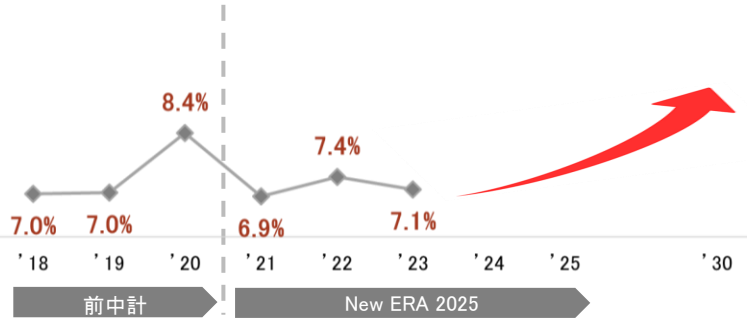
$$\text{ROIC} = \text{NOPLAT}_{※1} \div \text{投下資本(期首・期末平均)}_{※2}$$

■ ROEの推移 ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本(期首・期末平均)

■ ROICの推移

※1 NOPLAT = 営業利益 × (1 - 実効税率)

※2 投下資本 = 売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 買掛金 固定資産は有形・無形のみ



(単位: 億円)	'18	'19	'20	'21	'22	'23
純利益	204	215	275	237	260	266
自己資本 (期首・期末平均)	2,932	3,073	3,289	3,427	3,536	3,698

(単位: 億円)	'18	'19	'20	'21	'22	'23
営業利益 (みなし税引き後)	214	239	283	249	288	274
投下資本 (期首・期末平均)	1,556	1,591	1,606	1,771	2,162	2,654

■ ROE : 25年度8%を通過点とし、その後10%超を目指す

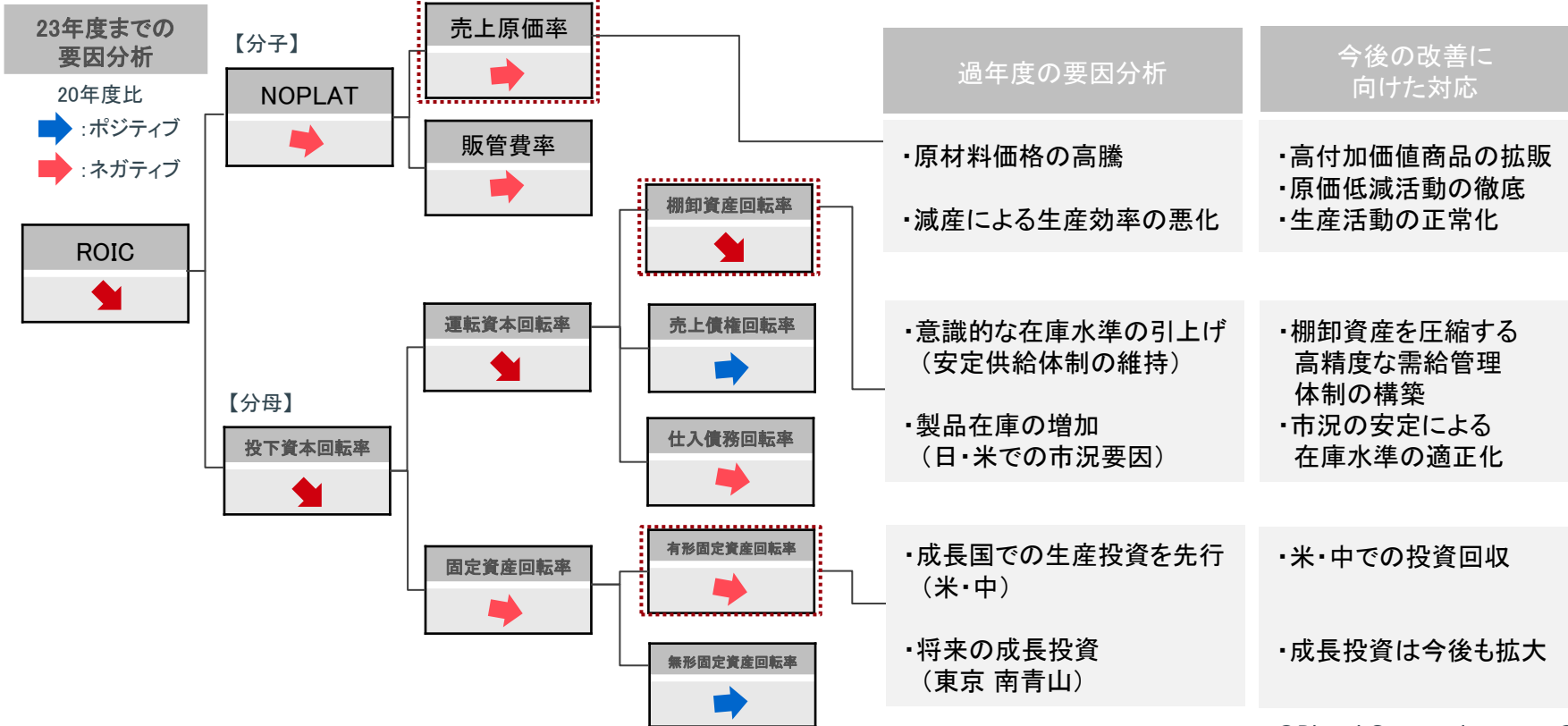
■ ROIC : 23年度を底に、利益の向上と棚卸資産の回転率を高め、改善を計画

中期経営計画の進捗 (ROICツリー)

$$ROIC = NOPLAT ※1 \div \text{投下資本(期首・期末平均)} ※2$$

※1 NOPLAT=営業利益×(1-実効税率)

※2 投下資本=売掛金+棚卸資産+固定資産-買掛金



目次

～中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し～

1. 数値目標の進捗と見通し

売上，利益，株主還元，ROE，ROIC，「生活の質」「地球環境」貢献商品，CO₂削減貢献量

2. 成長戦略

主要3か国の方向性(日本・アメリカ・中国)

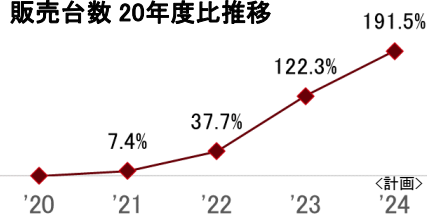
3. ESG RIM2050の進捗

役員報酬&株式保有ガイドライン

日本：環境貢献商品の販売

■ ハイブリッド給湯器 ECO ONE

販売台数 20年度比推移



環境貢献意識の高まり
省エネ機器補助金制度

実績：22年度より成長率UP
今後：さらなる伸びに期待

給湯省エネ2024事業

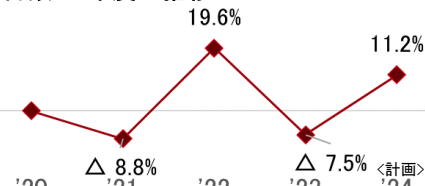
ECO ONEは全機種15万円/台

	戸建住宅		集合住宅	寒冷地
	一般住宅	狭小住宅		
新築	24/4 モデルチェンジ 160Lタイプ	22/6発売	23/9発売	21/4発売
既築	23/9発売	ECO ONE X5 X5 Plug-in (ヒートポンプの専用電源配線不要)		X5 PS/ベランダ設置型
				冷暖房 ハイブリッド

訂正：寒冷地仕様は補助金対象外となります

■ 高効率給湯器 エコジョーズ

販売台数 20年度比推移



環境性能は高いものの
イニシャルコストがネック

実績：横ばいで推移
今後：補助金で伸長トレンドへ

賃貸集合給湯省エネ2024事業

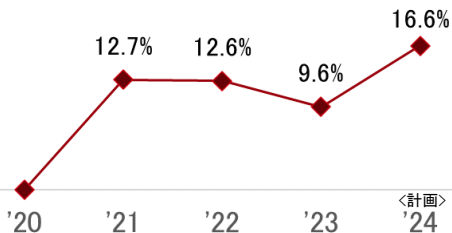
※ 賃貸集合住宅での取替えのみが対象

5万円/台	7万円/台	
おいだきなし	おいだきあり	
給湯専用機	ふろ給湯器	ガス給湯暖房機

日本:生活の質向上商品の販売

■ 衣類乾燥機 乾太くん

販売台数 20年度比推移



ガス衣類乾燥機
(デラックスタイプ)

・ガスのパワーを活かし、衣類をスピード乾燥 家事時間の大幅短縮

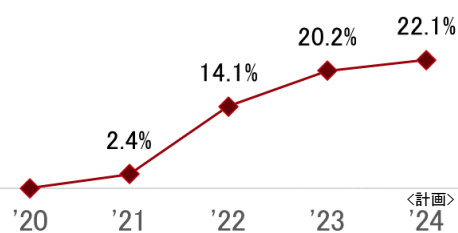
乾太くん **6kg 約60分** ← **5kg 約52分 / 9kg 約90分**

電気ヒートポンプ式
全自動洗濯乾燥機 約185分

電気ヒーター式
全自動洗濯乾燥機 約312分

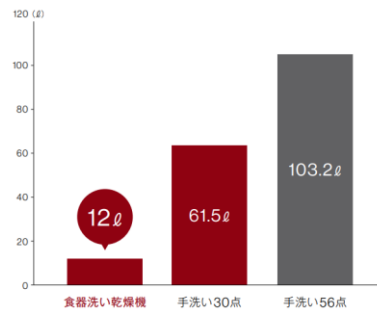
■ 食器洗い乾燥機

販売台数 20年度比推移



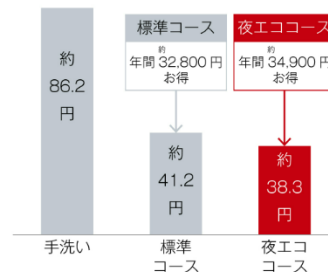
フロントオープン食洗機

・手洗いよりも節水



・「夜エココース」で、さらにお得に

一回当たりの光熱費



アメリカ:24年度 新商品

■ ガスだけでなく電気商材も投入し、巻き返しを狙う

■ :ガス商材

■ :電気商材

コンデensing給湯器



SENSEI[®] RX
SERIES
Built for the PRO, by the PRO[™]

24年 3月～

コンデensingボイラー



I-SERIES⁺
Condensing Gas Boiler

24年 3Q～

業務用ボイラー



(壁掛け)

(床置き)

23年12月～ 24年 4Q～

タンクレス用 Wi-Fi モジュール



24月 2Q～

EHP給湯器



24年 2Q-3Q～

業務用 電気タンク式給湯器



24年 4Q～

■ 新型コンデensing給湯器は、発売以降、好調に推移 (ガス種・屋内外のモデル統一、業界最高効率)

■ EHP給湯器の発売で、電気タンク式給湯器市場へ参入

アメリカ:米州での展開

2021年9月 メキシコ:業務用給湯システムメーカー Industrias MASS社を買収



業務用給湯器



プールヒーター

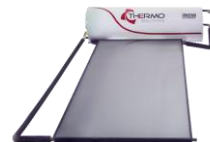
2024年4月 コスタリカ:電気給湯器メーカー Thermosolutions 社を買収



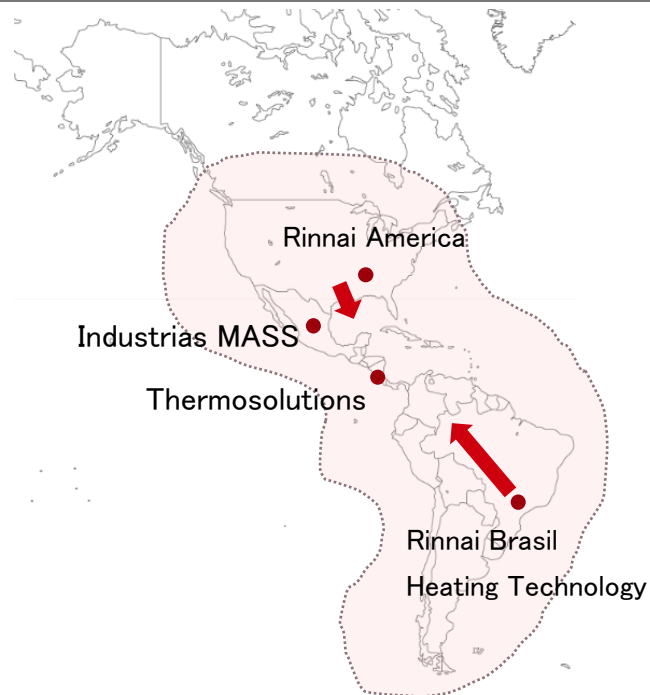
電気瞬間式
給湯器



電気貯湯式
給湯器



ソーラー給湯器

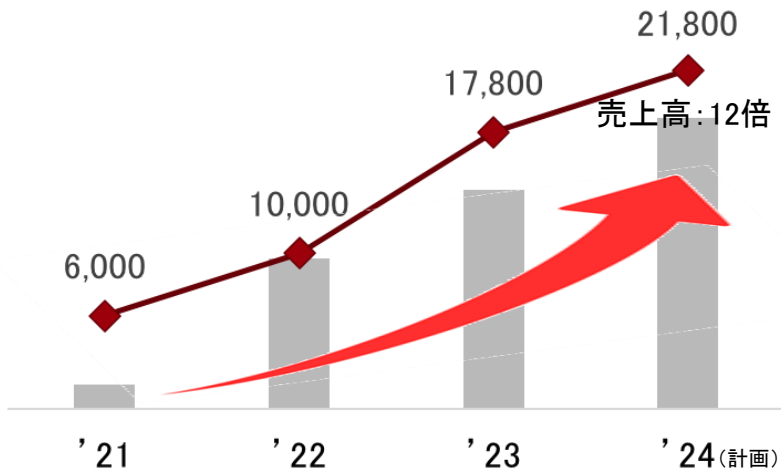


■ リンナイアメリカとリンナイブラジルとのシナジーで中米・南米北部市場に展開

中国：ネット実店舗による販売の拡大

■ ネット実店舗による拡販

■：売上高 -◆-：取扱店舗数



■ 24年度 新製品 厨房事業にも注力

ガラス前板給湯器



24年 4月

ビルトインコンロ



24年 4月

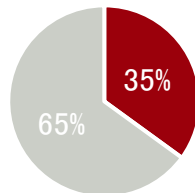
レンジフード



24年 3月

■ 給湯器 PF2.0 の構成比率の拡大

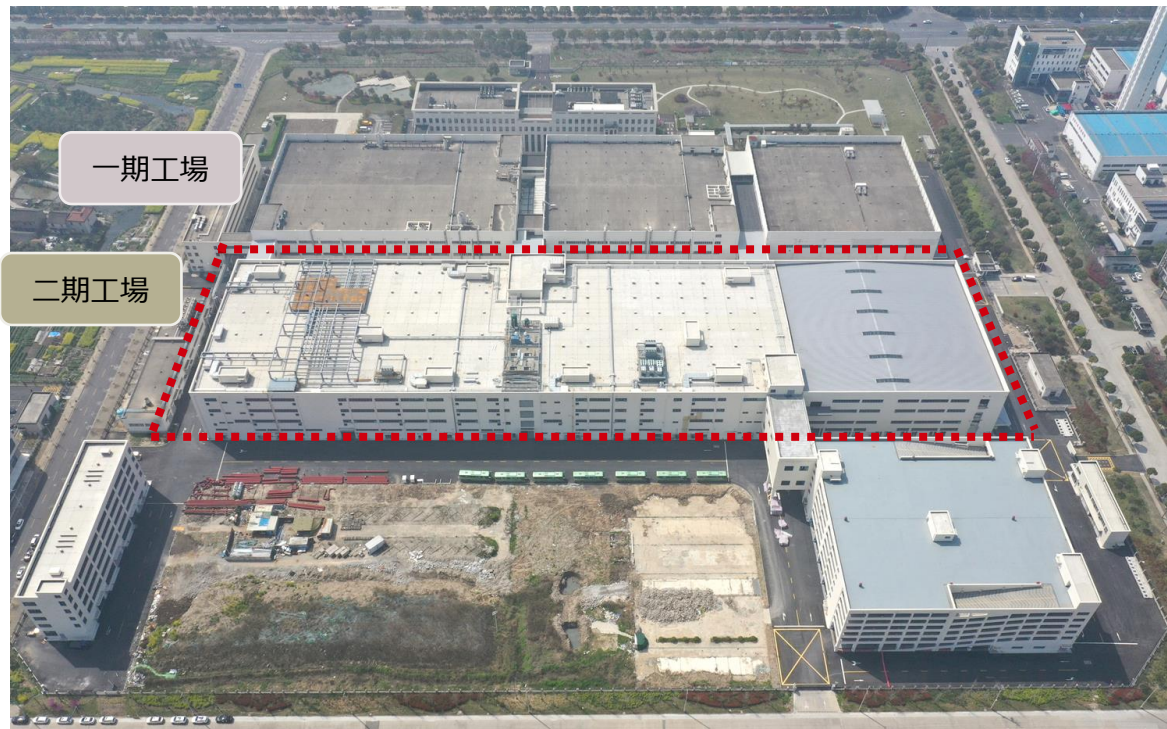
注)PF：給湯器の主力モデル



■：PF2.0給湯器
■：その他給湯器

2022年：PF2.0 量産開始
商品改廃のタイミングで
順次切り替えを実施

中国：奉賢 二期工場



二期工場の概要

2024年7月：本格稼働予定

床面積：97,893㎡

温水機器専門工場として活用
(給湯器/ボイラー)

投資金額(総額)：約90億円

一期工場の概要

床面積：66,702㎡

厨房家電専門工場として活用
(コンロ/レンジフード)

目次

～中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し～

1. 数値目標の進捗と見通し

売上，利益，株主還元，ROE，ROIC，「生活の質」「地球環境」貢献商品，CO₂削減貢献量

2. 成長戦略

主要3か国の方向性(日本・アメリカ・中国)

3. ESG RIM2050の進捗 役員報酬制度の改定

ESGトピック E: RIM2050の進捗

当社は、2021年11月に「リンナイグループのカーボンニュートラル実現に向けて」(RIM2050)を公表しました。当社や当社を取り巻く市場・環境変化に合わせ、一部内容の見直しを行いました。

2030年に向けた施策(エコジョーズの普及)

国内

国の普及目標である2030年高効率給湯器ストック3,050万台に貢献すべく、エコジョーズ化率向上をさらに推進

(当社の現在のエコジョーズ化率:40%)

- ▶ 24年度新設された既存賃貸集合住宅向け補助金の活用などで、エコジョーズへの取替を促進
- ▶ 地域(寒冷地)や世帯(少人数)によっては、エコジョーズの省エネ性能がエコキュートを上回る

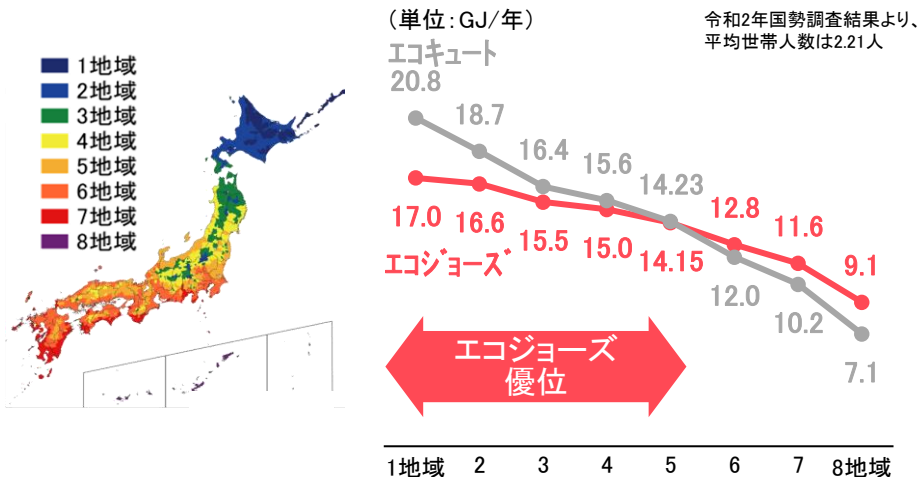
既存賃貸集合住宅向け補助金の新設



賃貸集合給湯省エネ2024事業

おいだきなし	おいだきあり	
給湯専用機	ふろ給湯器	給湯暖房機
		
5万円/台	7万円/台	

2人世帯における給湯エネルギー消費量



※右画像出典: 建築研究所 エネルギー消費性能プログラム住宅版 地域区分(R1版)
 エコジョーズはモード熱効率率92.5%、エコキュートはJIS3.3条件で、同プログラムを使用しリンナイにて一次エネルギーを算出。

2030年に向けた施策(ハイブリッド給湯器ECO ONEの普及拡大)

国内

- ▶ 23年度よりハイブリッド給湯器の補助金増額などにより、販売台数が1.6倍と大きく成長
- ▶ 24年度補助金の更なる増額などの追い風により、目指す2030年度:30万台が視野に入る

ECO ONEに対する補助金

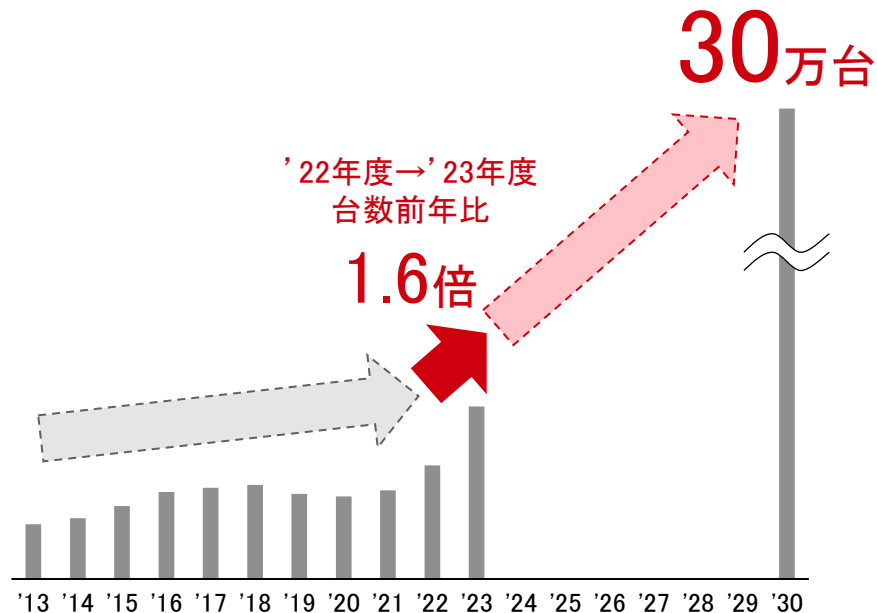


補助金 15万円/台(23年度は5万円/台)



X5シリーズ
(主に都市部戸建、新築マンション、給湯器取替)

160L
(主に新築戸建)

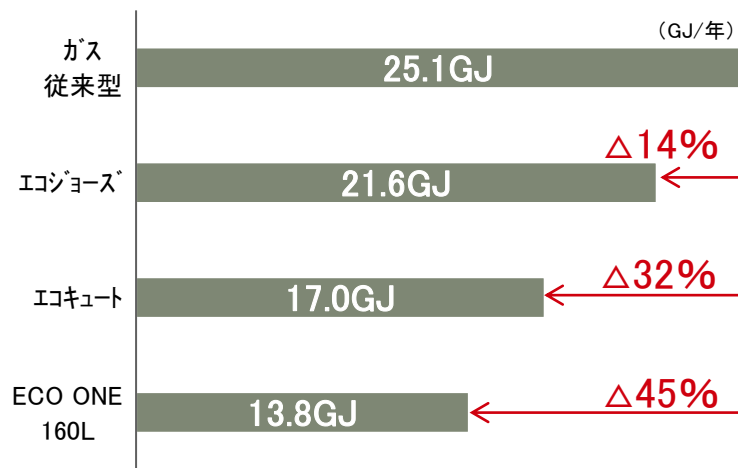


ECO ONE 2030年:30万台への取組み

国内




- ▶ ECO ONE の省エネ性No. 1などの様々な特長をPRする中で、行政と連携を強化
- ▶ ラインアップの拡充で、設置できる自由度を高め、販売拡大を目指す

一次エネルギー消費量(6地域・4人家族)



※2023/4/22 第40回省エネ小委員会 当社資料より抜粋
 ガス従来型はモード熱効率率78.4%、エコジョーズはモード熱効率率92.5%、エコキュートはJIS3.5

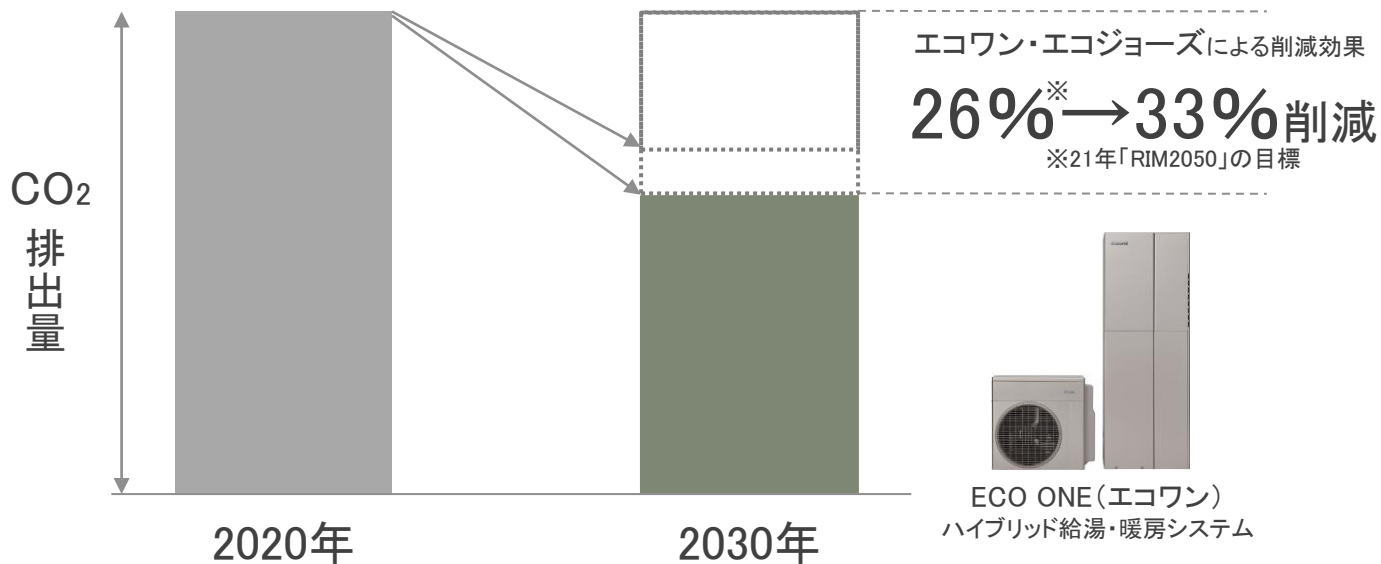
RIM2050発表以降、ラインアップを順次拡充

	戸建住宅		集合住宅	寒冷地
	一般住宅	狭小住宅		
新築	24/4 モデルチェンジ  160Lタイプ	22/6発売  X5 (70Lタイプ)	23/9発売 	21/4発売 
既築	23/9発売  X5 Plug-in (ヒートポンプの専用電源配線不要)		X5 PS/ベランダ 設置型	冷暖房 ハイブリッド

CO₂排出量の削減

国内

～ エコワン・エコジョーズによるCO₂排出量の削減イメージ ～



エコワンに加え、エコジョーズの普及促進でCO₂削減に貢献

CO₂排出量の目標と進捗

- CO₂排出量の削減目標を設定し、カーボンニュートラル実現のための削減活動を推進
- 特に海外では今後の事業規模の拡大を目指す中で、CO₂排出量の目標ではなく、CO₂削減貢献量を目標とする
- 事業活動では、2025年頃まではCO₂増加するも最大限の「増加幅の縮小」に努める。各国のエネルギーインフラ事情等を勘案し2030年に向け実質的なCO₂減少を目指す
- 海外の製品使用では、2030年までの目標として「CO₂削減貢献量」を新設し運用

事業活動(Scope1,2)

	2020年	2022年	2030年	2050年
	実績値		目標値	
単体	2.2	100%	50%	0%
国内関連	2.8	96%	50%	0%
海外関連	5.4	106%	50%	0%

商品使用(Scope3_11)

	2020年	2022年	2030年	2050年
	実績値		目標値	
	1,680	87%	67%	0%
	2,820	2,986	—	0%
追加指標 CO ₂ 削減貢献量	350	450	1080	—

※ 2020年(基準年)の数値は、CO₂排出量を示す (単位:万tCO₂)

※ 2022年~2050年の数値は、基準年に対する当該年のCO₂排出量比率を百分率で示す (単位:%)

ESGトピック G: 役員報酬制度の改定

■報酬割合やKPIの見直し

現 状	報酬割合	固定:賞与:株式 = 7 : 2 : 1	基本報酬(固定) 70%	業績連動報酬	
	賞与	連結/単体営業利益 (+ESG定性評価)により算定		賞与 20%	株式 10%
	株式報酬	固定のみ			
改 定 後	報酬割合	業績連動部分の割合を増加	基本報酬(固定) 60%程度	業績連動報酬	
	賞与	連結営業利益/ <u>効率性指標(ROE)に加え 従業員エンゲージメントの改善度</u> (+定性評価)により算定		賞与 20%程度	株式 20%程度
	株式報酬	固定 + <u>定性評価(株主総利回り(TSR)を考慮)</u> により算定			

株式保有ガイドライン

代表取締役社長 : 就任から 3年後 までに基本報酬の 1.5倍 に相当する株式

その他取締役 : 就任から 3年後 までに基本報酬の 1倍 に相当する株式
(社外取締役を除く)

1. 2023年度 実績
2. 中期経営計画「New ERA 2025」の振り返りと今後の見通し
3. 2024年度 計画

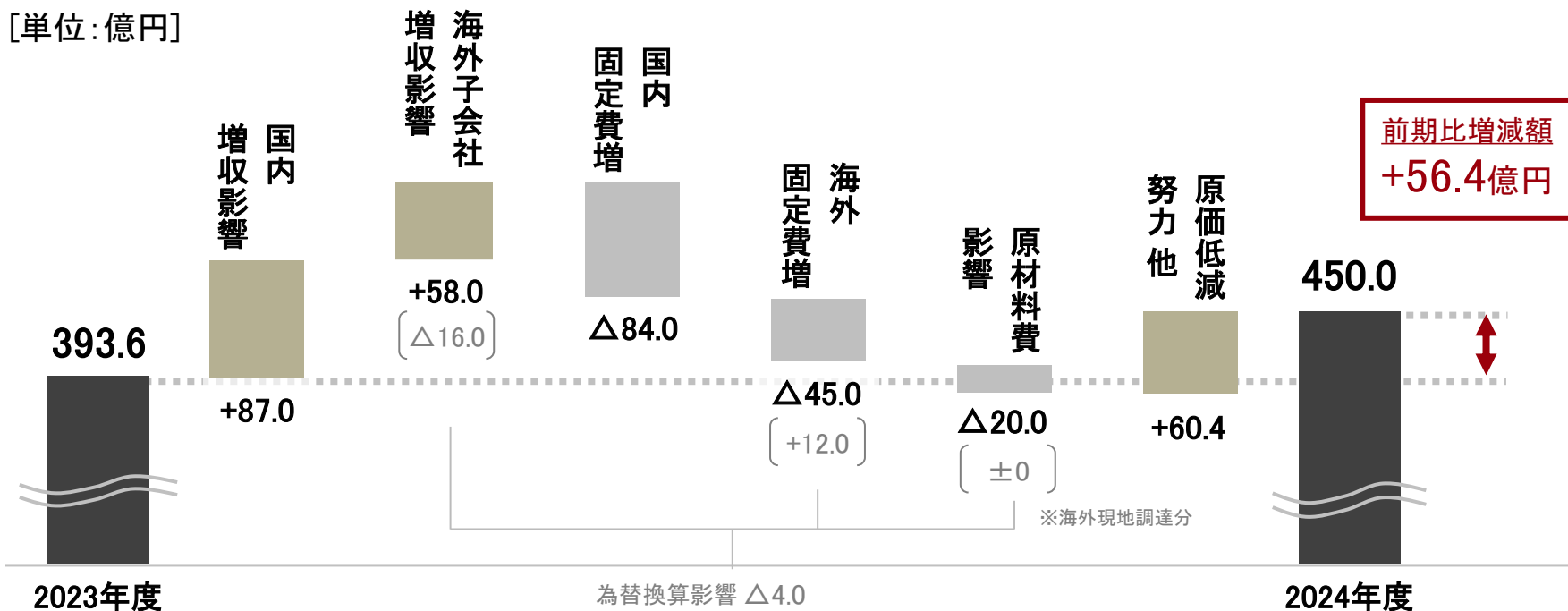
連結損益 2024年度 計画

[単位: 億円]	2023年度 実績	2024年度 計画	2023年度比	
			増減額	増減率
売上高	4301	4500	+198	+4.6%
国内	1833	1920	+86	+4.7%
海外	2468	2580	+111	+4.5%
海外比率	57.4%	57.3%	△0.1pt	-
営業利益	393	450	+56	+14.3%
営業利益率	9.2%	10.0%	+0.8pt	-
ROE	7.1%	7.4%	+0.3pt	-
ROIC	10.5%	11.4%	+0.9pt	-

*増減額の表示桁数以下、切り捨て

2024年度 連結営業利益 増減計画

[単位:億円]



■ 国内・海外ともに市況回復を受け、事業環境は正常化に向かい、増益を見込む

リンナイ単体 2024年度 計画

- 在庫の解消で、実需に連動した正常な事業環境で期初を迎える
- 補助金を追い風にして、地球環境貢献商品を中心に販売増を計画
- 物流・原材料費の高騰を見込むも、原価低減活動で増益に



ビルトインコンロ



ハイブリッド給湯器



ガス衣類乾燥機



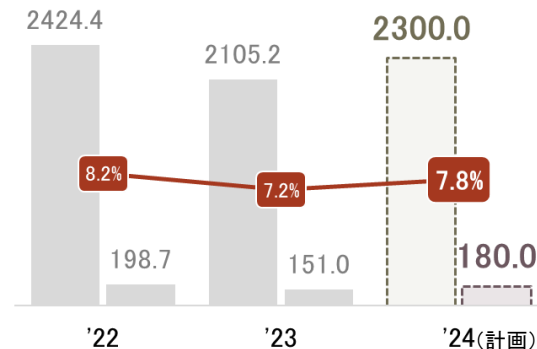
食器洗い乾燥機

(単位:億円)

	2023年度 実績	2024年度 計画	前期比増減率
売上高	2105.2	2300.0	+9.3%
営業利益	151.0	180.0	+19.1%
営業利益率	7.2%	7.8%	+0.6pt

リンナイ単体 通期 計画

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数 計画:国内)

	前期比増減率
給湯暖房機	+2.4%
ふろ給湯器	+11.9%
ビルトインコンロ	△1.0%
ガス衣類乾燥機	+19.8%

リンナイアメリカ 2024年度 計画

- 需要動向は、利下げによる住宅市況の回復に期待
- 新商品の販促によるコスト増を1Qに見込むものの
現地工場の稼働率向上や新製品効果により、黒字化



ノンコンデンシング
ガス給湯器



コンデンシング
ガス給湯器 (高効率タイプ)

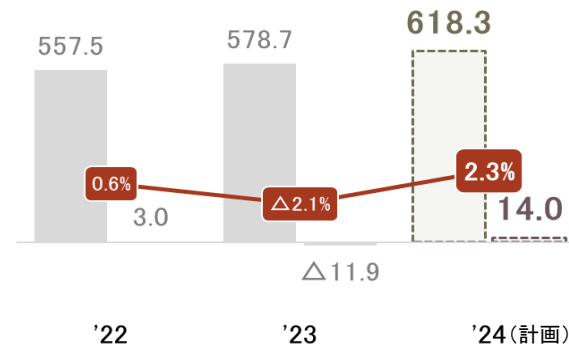


コンデンシング
ガスボイラー

(単位: 億円)	2023年度 実績	2024年度 計画	前期比増減率	
			円 貨	現 地 通 貨
売上高	578.7	618.3	+6.8%	+7.3%
営業利益	△11.9	14.0	-	-
営業利益率	△2.1%	2.3%	-	-

リンナイアメリカ 通期 計画

■: 売上高 ■: 営業利益 ●: 営業利益率 (単位: 億円)



(販売台数 計画)

	前期比増減率
タンクレス ガス給湯器	+5.3%
内)コンデンシング (高効率タイプ)	+16.0%

上海林内 2024年度 計画

■ ラインアップの拡充で厨房事業の再強化に取り組むとともに、高付加価値品の伸長、原価低減の推進で増収増益を計画

■ 奉賢工場 二期工場が温水機器専門工場として、本格稼働(2024年6月)



給湯器



ビルトインコンロ



レンジフード



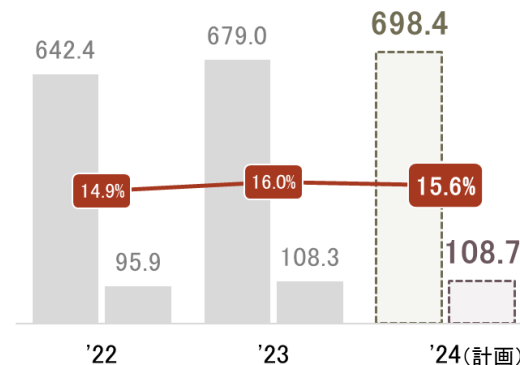
ボイラー

(単位:億円)

	2023年度 実績	2024年度 計画	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	679.0	698.4	+2.9%	+5.0%
営業利益	108.3	108.7	+0.3%	+2.4%
営業利益率	16.0%	15.6%	△0.4pt	

上海林内 通期 計画

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数 計画)

	前期比増減率
給湯器	+4.2%
ビルトインコンロ	+17.4%
レンジフード	+10.9%
ボイラー	+14.0%

主要海外子会社 2024年度 計画

(単位:億円)		2023年度 実績	2024年度 計画	前期比増減率		販売台数 計画 (前期比増減率)	
				円貨	現地通貨		
リンナイオーストラリア	売上高	304.2	313.8	+3.1%	+4.6%	タンクレス給湯器	△3.2%
	営業利益	12.2	16.1	+32.2%	+34.1%	電気タンク式給湯器	+11.5%
	営業利益率	4.0%	5.2%	+1.2pt		ダクト式冷暖房システム	+22.0%
リンナイコリア	売上高	298.6	318.0	+6.5%	+8.4%	ボイラー	+10.5%
	営業利益	3.4	10.0	+195.2%	+200.5%	ガスコンロ	+0.1%
	営業利益率	1.1%	3.2%	+2.1pt		電気コンロ	+36.2%
リンナイインドネシア	売上高	154.0	167.0	+8.4%	+12.7%	テーブルコンロ	+8.8%
	営業利益	27.4	31.9	+16.3%	+20.9%	ビルトインコンロ	+40.1%
	営業利益率	17.8%	19.1%	+1.3pt		レンジフード	+16.3%

設備投資・研究開発

■ 連結 設備投資/研究開発費 実績と計画

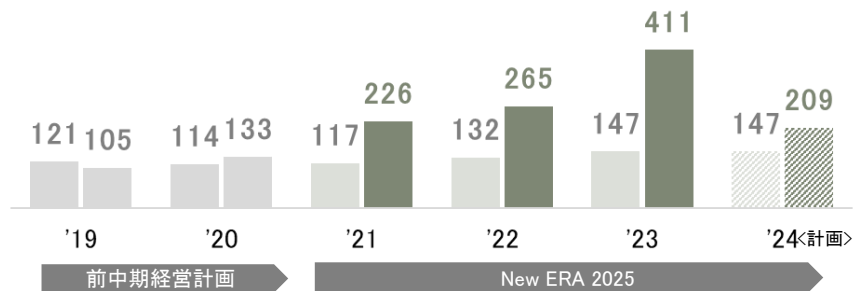
[単位:億円]	2023年度 実績	2024年度 計画	増減
設備投資	411	209	△202
減価償却	147	147	±0
研究開発費	143	158	+15

■ 2024年度の主な設備投資計画

- ▶ 日本:生産技術センター拡張(完成) など
- ▶ 海外:中国 奉賢二期工事 設備 など

設備投資・減価償却 実績推移

(単位:億円) ■:設備投資 ■:減価償却



研究開発費 実績推移

(単位:億円) ■:研究開発費

